



令和4年10月

港区港南中学校

校長 佐々木 希久子

“こころ”のサポーター

“こころ”のサポーターだより

ある画家と教師の話です。

横山智子という画家がいます。彼女は”横山ブルー“と呼ばれる独特の”青“を使うことで知られる画家です。昨今朝日新聞の土曜版で連載された小池真理子の人気エッセー”月夜の森の泉(ふくろう)“に印象的な挿絵を描いていました。そして、令和4年8月31日から9月6日まで、伊勢丹新宿店本店で個展を開きました。

さて、そのような画家となった横山さんですが、高校を卒業してから画家になるまでは何回も壁にぶちあたりました。特に大きな壁は進学だったのです。

その頃横山さんの通っていた高校はほとんど例外なく大学へ進学する学校でした。当然、画家を志していた横山さんは、次の年も芸大を受験しようと頑張りました。

高校を卒業して大学を受験するときには「卒業証明書」が必要になります。横山さんは芸大受験のために母校を訪ね、卒業証明書をもらいに行きました。高校3年生のときに担任だった先生は数学の先生でした。この先生は、芸術とはおよそ無関係な先生のようにみえました。でも、卒業証明書を取りに来る横山さんのために、近所名物のたい焼きを買って待っていていたのです。温かいたい焼きの紙袋を渡して、「お頭つきよ」と笑って渡す先生。横山さんはたい焼きの温かさを感じながら母校を出ました。

翌年。再び横山さんは芸大を受験して落ちました。それが4回繰り返されました。そして5回目の受験のとき、母校へ卒業証明書を取りに行くと、先生は「芸術家を志したのだから頑張きなさい」と言って、「お頭つきよ」と暖かいたい焼きを渡してくれました。

5浪し、横山さんは芸大に行くことを諦めました。高校の同級生はみんな大学を卒業し、いい会社に就職していました。そして、横山さんは武蔵野美術大学へ進みました。

それから何十年と、ときがたちました。画家として確実にキャリアを積み、新聞連載もこなして成功した横山さんが、今年、東京伊勢丹で個展を開いたとき、そこには懐かしい顔がありました。そうです。担任の先生が個展を見に来てくれたのです。そしてそこにはいつものたい焼きが。

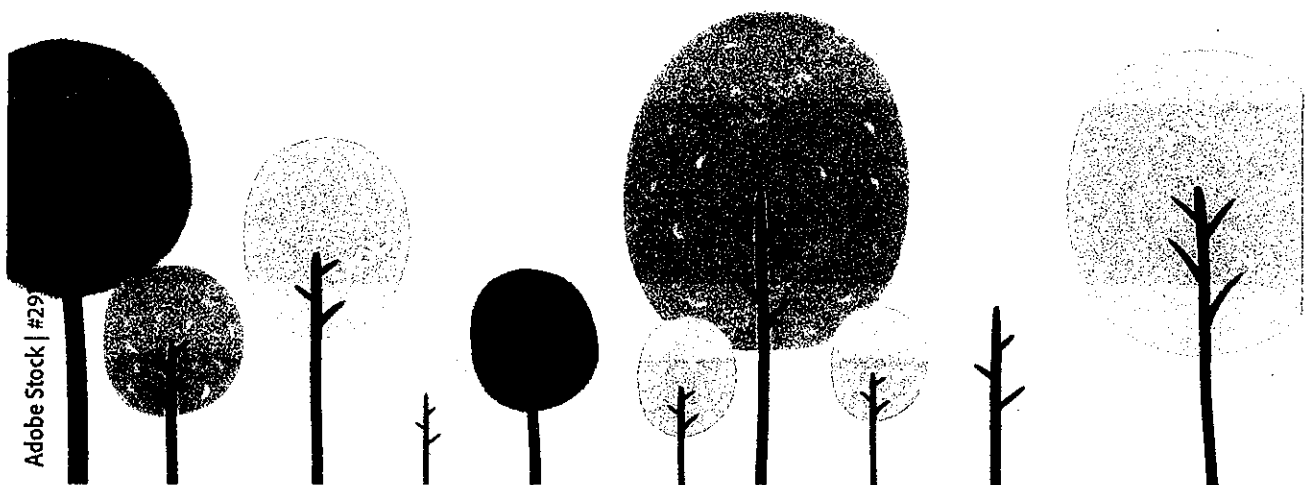
「お頭つきよ」と渡されたたい焼きの紙袋は、まだほんのり暖かかったのです。



～～保護者のみなさんへ～～

今年は夏の暑さが長く続きましたがようやく秋らしい気候になりました。いかがお過ごしでしょうか。港南中学校では、生活習慣の乱れ、ネット・ゲーム依存、体調不良、不登校傾向、発達障がいなどの相談が増えています。さまざまな要因があると思いますが、早めの対応が大切になります。何かお気づきのことがあれば、お知らせいただき、一緒に考えていければと思っています。

子育ては終わりが見えないですね。思い通りにいかないことがしょっちゅうあります。自分の子育てはこれで良いのだろうか。誰しも心が揺れるときがあります。そんなとき、学校の相談室は一番身近な窓口だと思います。どうぞお子さんに関することはお気軽にお声をかけてくださいね。



“こころ”のサポーター部屋のご案内

場所：港南中学校校舎 2 階（職員室後方ドアの前）
開いている曜日：火曜日・木曜日 10:00～

10 月は全員面接で昼休みはあいにくふさがっています。

保護者のみなさまへ
午前中か午後の授業時間だと相談室が比較的空いています。

電話での相談も受け付けています（火曜・木曜）

★ご予約は下記に★
職員室代表電話番号：03-3471-0238（副校長・学年担当）
“こころ”のサポーター直通電話番号：03-5462-9100（火・木）